

令和4年度 全国学力・学習状況調査結果及び分析・対策(松江市全体～中学校・義務教育学校後期課程)

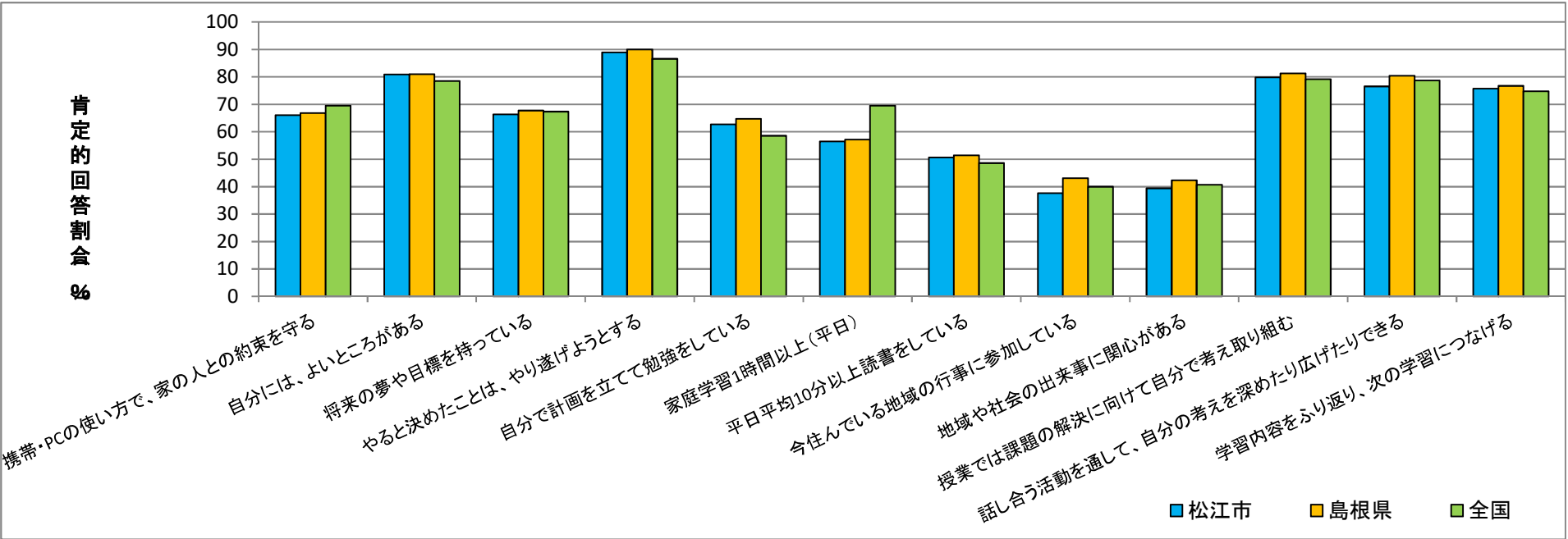
(1)学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○:成果、●:課題)	対策(・)
国語	○場面の展開や登場人物の心情の変化などを捉えながら、文章の内容を適切に読み取ること。 ○中学校で学習した行書の特徴等についての知識を、小学校から積み上げてきた書写の学習内容を踏まえた上で活用すること。 ●表現技法等の学習用語や音声の働き、仕組み等についての知識を、表現活動に活用することが十分にできていないこと。 ●記述式問題の無解答率が高いこと。	・表現技法等の名称は意味や用法とともに整理して理解し、得た知識を実際の言語活動(話す・書く)で活用できるようにする。 ・「考えの意図を明確にして」「話の展開を取り上げて」等の条件に応じて自分の考えを表現する言語活動(書く・話す)を意図的に設定する。
数学	○「数と式」領域の基本的な連立一次方程式を解く技能。 ○「データの活用」領域で、与えられたデータから特徴や必要な情報を読み取ること。 ●「関数」領域において、与えられた表やグラフから必要な情報を適切に読み取ること。 ●「データの活用」領域において判断の理由を数学的な表現で説明することと、「図形」領域において、筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明すること。	・日常的にグラフや表などのデータから読み取った情報等の事象について、その意味を数学的に解釈し、事柄の特徴を数学的に説明する場面を意識した学習活動を行う。 ・見出した事柄を自分の言葉で説明したり根拠を基にして自分の言葉で説明したりするなど、言語活動を重視し、他者と協働的に問題を解決していく学習活動を他の教科とも連携しながら進めていく。
理科	○「エネルギー」「生命」を柱とする領域で、思考・判断・表現すること。 ○「考察の妥当性」を判断して高めたり、「実験結果を基に課題に正対した」考察を記述したりすること。 ●これまで身に付けた知識・技能を活用するとともに、日常生活と関連付けて身近な現象を選択すること。 ●観察・実験を行うことの「意味することや考えられる可能性」について考えながら、予想や仮説を立て、それと異なる実験結果が出た場合の、操作や条件制御の不備の可能性を指摘すること。	・単元の導入やまとめの場面で、日常生活に関連付けられた事象を取り上げたり、振り返りを活用して、確実に知識・技能を定着させる時間を設定したりする。 ・課題の提示方法を工夫し、予想や仮説を立てる時間を十分に取る。また、予想や仮説についての実験手順を、小グループで考えさせる場面を設定する。 ・予想や仮説と異なる結果が出た場合、小グループでの対話による学習を通して、実験操作や条件制御の不備について考える場面を設定したり、再実験の時間を設定したりする。

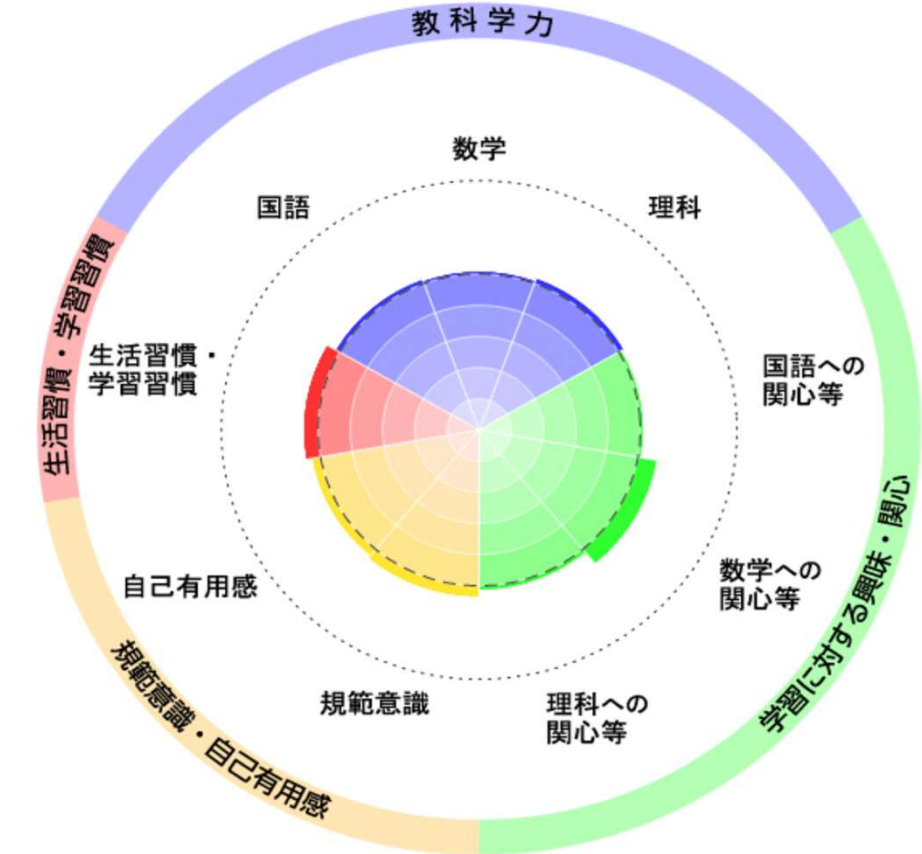
(2)質問紙調査から見られた傾向

	成果と課題(○:成果、●:課題)	対策(・)
学習状況調査	○総合的な学習の時間に、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。 ○難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦できる。 ●家庭学習の時間(「1時間以上、2時間より少ない」→全国より高い「2時間以上、3時間より少ない」「3時間以上」→全国より低い) ●学級では、学級生活をよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている。	・宿題だけでなく、自分自身に必要な学習計画を立てられるようにするために、各教科で勉強方法の指導や共有、家庭学習でのタブレット使用、生徒同士で勉強方法を紹介するなど、勉強方法について考える機会をもつ。 ・テレビ、動画、ゲーム、SNSの利用時間が多いため、平日放課後や休日の時間の使い方について振り返り、面談等で保護者とも共有する。 ・学級活動等で、定期的に学級の様子を振り返り、話し合いを通して自分たちで課題を解決する場を設定する。話し合いをよりよいものにするために、エンカウンターを実施し、人間関係づくりができる場を設定する。

(3)質問紙調査の結果より(学力との相関が指摘されているものや、松江市教育委員会として注目しているものを挙げています。)



(4)学力調査及び質問紙調査から見られた傾向(破線は全国平均)



【参考】平均正答率(%)

	松江市	島根県	全国
国語	68	69	69.0
数学	50	49	51.4
理科	48	48	49.3

【受検者数】 1,569 名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。